

13	単元名	観察カードを書こう
----	-----	-----------

1 指導目標

- (1) 観察の仕方が分かるようにする。
- (2) 観察したことを、絵や文で表現できるようにする。
- (3) 「□は～です。」「□は○○します」の文型に慣れ、使えるようにする。

2 指導内容

- (1) 色・大きさ・重さ・硬さ・手触り等の観察の観点を理解させる。
- (2) 細かいところまで良く見て、絵や文に表現させる。
- (3) 「□は～です。」「□は○○します」の文型を理解させ、話したり書いたりさせる。

3 指導計画

時間	主な学習内容	指導上の留意点
1	<p>○色の名前を覚える。 「何色ですか。」 「○色です。」</p> <p>○折紙取りゲームをする。 指導者が言った色の折紙を取る。</p> <p>○二つの物を用意して、いろいろな違いが分かる。 二つを重ねて「大きい、小さい」を比べる。 二つを持って「重い、軽い」を比べる。 二つを触って「硬い、柔らかい」を比べる。</p> <p>○実際に物に触りながら、感触の違いを比べる。</p> <p>○ざらざら・すべすべ・つるつる・ちくちく等の、表現を知る。 「□はざらざらします。」 「□はすべすべします。」 「□はつるつるします。」 「□はちくちくします。」</p> <p>○ワークシートで「□は～です。」「□は○○します」の文型を練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・折り紙、クレパス、色エンピツ等カラフルな学用品などを準備する。 ・覚えた日本語を使ってゲームを行い、定着させる。 ・感触の違うものを用意しておく。 大小の消しゴム 重さの違うカバン スポンジと板…など ・□の部分は「これは」に換えても言えるようにする。 ・例文をカードにしておく。

2	<ul style="list-style-type: none"> ○観察カードの書き方を知る。 月日、天気、曜日、温度、観察するものを書く。 ○観察の観点を復習する。 「どんな観点がありましたか。」 「色、大きさ、重さです。」 ○教室や屋外で、いろいろな物を観察し、色や形の名称をワークシートに書き込む。 細かいところまでよく見る。 大きく書く。 ○「かんさつカード」に書いたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示用の観察カードを用意しておく。 ・書きやすいようにバインダー等を用意する。
---	--	---

4 指導のポイント

- (1) 実際に触って、実感として言葉を覚えさせたい。
- (2) 取り上げる形容詞については、日常生活や学習でよく使うものとする。
- (3) 8色から10色程度の色の名称を教える。

5 期待される成果等

- (1) 色の名称が分かり、日常生活の中で使えるようになる。
- (2) 「ざらざら」「つるつる」「すべすべ」「ちくちく」など、感触の違いが分かり、表現できるようになる。
- (3) 「名詞は名詞です。」又は「名詞 + 形容詞です。」の言い方に慣れ、使えるようになる。
- (4) 調べたことをみんなの前で発表することができる。

6 補充・発展的な学習課題例

- (1) 身近な生き物や物など、観察する対象を替えてカードを書く。
- (2) 観察の観点を増やす。
- (3) 物差しやはかりを使い、物の長さや重さを測る。

7 実践例

- (1) タガログ語を母語とする児童
簡単な日常会話ができ、色や形は同学年児童と同じ程度に理解できていた。「ざらざら」「つるつる」「すべすべ」「ちくちく」などの擬態語については、理解するのに時間がかかったが、少しずつ使えるようになった。
- (2) 英語を母語とする児童
「葉」「茎」など、植物の部位の名前については母語と対応させて学習した。母国での学習経験を活かし、思ったこと、気付いたことを学習カードに書けるようになった。

ようす あらわ ことば つか ぶん つく
様子を表す言葉を使って文を作ろう

なまえ ()

(^{けしごむ} ぼくの消しゴム) は () です。

(^{せんせい けしごむ} 先生の消しゴム) は () です。

() は () です。

() は () です。

() は () です。

() は () です。

() は () です。

() は () です。

() は () です。

() は () です。

かんさつカード ()

が 月 ち 日 () び 曜 日 き 天 気 んど 温 度 ど 度

かんさつしたもの

【 】

いろ
色

おお
大きさ

おも
重さ

かたさ

さわってかんじたこと

おも
思ったこと